

TU MAGAZINE

10代のための音楽ガイド



inner space lab

waterweed / Diffuse



質実剛健な轟音でフロアをロックする大阪発メロコアバンドの渾身のフルアルバム。FACT直系のサウンドはスクリーモ・メロコア好きだけじゃなく、バンドサウンドをマイクする全ての人々に聴いてほしい。無駄なパフォーマンス一切なし、純粹に音楽の力をぶつける姿勢はリードトラック"Music is Music"のMVにも表れている。STOMPIN' BIRD ヤスさんの言葉を借りて表現するならば「力 is パワー」。(上田)

Aphex Twin / Richard D James Album



2000年半ばから流行しているEDMや様々な電子音楽の源流を辿ると必ず行き着く一枚と言えるテクノの代表作。テクノという音楽を生み出したYMOが電子音楽のなかに「ポップさ」を追求し、Aphex Twinがテクノを「ダンスマジック」として確立させた。Perfumeやモモクロ、ボカラミュージックが好きな人もひとつ勉強として聴いてみてはどうだろうか。(上田)

TOOL / 10,000 Days



ヘビーメタルのなかでも「アートメタル」と称されるバンド、TOOLの名盤。本国アメリカでは絶大な人気を誇るが日本での知名度はなぜかマイナチ低い。音と音の「間」を捉えた、重厚なギターリフ、唸るベースラインが印象的で、その影響はマキシマムザホルモンの亮君もTシャツを度々愛用しているほどである。ラウドが好きなら、1曲目の"Vicarious"で昇天すること間違いない。(上田)

木村カエラ / 8EIGHT8



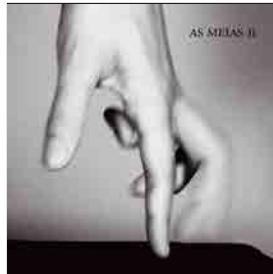
正直、「JPOP でしょ?」と侮っている部分が昔ありました。このアルバムによって打ち壊されました。全曲作曲が横浜の伝説「ASPARAGUS」の忍さん。全体的にギターワークがえげつない良いし、もはやバンドじゃん!ってくらいグルーヴィーな演奏が行われてるアルバム。メロディーはポップだし、かっこいいし可愛い。こう言うガールズバンドを俺は見たい。3曲目「8EIGHT8」が好きです。(川口)

蓮沼執太フィル / 時が奏でる



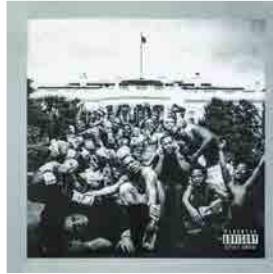
エレクトロニカ・アーティストの蓮沼執太が組んでいる楽団。とても長く長いイントロ・間奏は段々と色々な楽器が様々な絡み方をしていく様を表現していて、純粹に音楽の可能性を教えてくれる。心や脳が疲れた時、安定剤みたいな感じでゆったり聴くことが多いです。4曲目「Trio - VOL」は、涼しい風を浴びながら明け方から朝方にかけて、街を散歩したくなってしまうようなサウンド。楽しい。(川口)

As Meias / As Meias II



bluebeard や There is Light That Never Goes Out のメンバーからなるバンド、As Meias(現在は解散)。ジャバニーズアンダーグラウンドエモの最高傑作。歌はメロディアスかつ、基本4/4拍子でありながら、ドラムやギターのフレーズをずらして変拍子っぽく聴かせる独特・絶妙なアレンジワークは作曲に携わる人ならば必聴な一枚。これを聴かずして「エモい」は禁句。(上田)

Kendrick Lamer / To Pimp A Butterfly



現在のヒップホップシーンの王者とも言われるKendrick Lamarの傑作。人種差別・生い立ちの葛藤を表現したスピリチュアルなリリック、ヒップホップでありながら、ジャズ要素も強い絶妙なトラックメイキング、何より2010年代にリリースされた音楽のなかでも最高の音質!ヒップホップを聴いたことのない人でも聴きやすい作品。まずはリードトラックの"Alright"で身体を揺らしてほしい。(上田)

ストレイテナー / TITLE



バンドと言う形態の音楽が、心にもたらす力って言うのは半端なものではない。聴いた瞬間にハンマーで頭をぶん殴られたみたいな衝撃が走る。このTITLEはまさに中学三年川口少年の心に、今も響き続ける衝動を残した。2曲目「PLAY THE STAR GUITAR」はマジのガチで最高(語彙力)。今聴いても中学生の頃、バンドマンになりたくて仕方なかった自分の気持ちに戻れる。(川口)

ハヌマーン / RE DISTORTION



高校の頃一番聴いたであろうアルバム。10代特有の焦燥感と、モラトリアムの自分と向き合うような文学的な歌詞が最高。サウンドはエッヂの効いたテレキャスサウンドで、20代半ばのオルタナ好きなやつは大体学生時代に聴いてるアルバム。全曲大好きだけど、特に2曲目「Fever Believer Feedback」がキレまくってる。あと幸福のしつぼがいい曲過ぎて膝から崩れ落ちる。(川口)

Aus / Light in August, Later



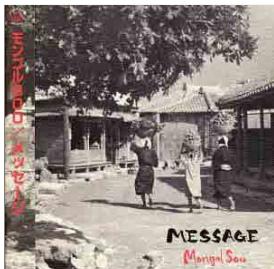
環境音やピアノ・エレクトロサウンドで織りなすアンビエントミュージック。夢の中へ落ちていく感覚、涼しい空気を纏ってどこまでも飛んでいく感覚、夜、暗い部屋で一人で居てもいいんだよと教えてくれる感覚。とにかくひとりぼっちになりたい気分の時によく聞きます。6曲目「Opened」は意識を現世ではないどこかへ持つて行かれます。落ちるというか、昇る感覚に近いです。nice trip。(川口)

B-DASH / FREEDOM



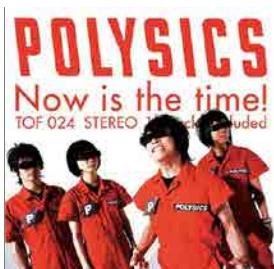
日本のオルタナティブロックバンド B-DASH。ギターボーカル GONGON の「適當アドリブめちゃくちゃ語」が特徴的。メロディセンスは歴史に名を残すほど抜群で、スカ、メロコア、ハードコアなどジャンルにとらわれない楽曲たちがアルバムに無限の幅を生み出す。唯一無二の存在の B-DASH。他には絶対いないバンド。自分の固定概念をぶち壊するために一度は聴いてみてほしい一枚。（長谷川）

MONGOL800 / Message



日本中に影響を与えた名盤。「あなたに」や「小さな恋のうた」は誰もが一度は聞いたことがあるだろう。沖縄への愛や素直な気持ちを書いた歌詞に、力強さも優しさも切なさも詰め込まれたメロディー。ギターやベースのフレーズからも沖縄の雰囲気を感じられるのは、沖縄で育ち、地元を愛し、そこで磨き上げてきたからだ。彼らが地元から生んだ奇跡を横須賀で。時代を作った一枚を是非聴いてもらいたい。（長谷川）

POLYSICS / NOW IS THE TIME !



日本が世界に誇るバンド POLYSICS。理屈では語れないアルバム。ビコピコサウンドに、ガチャガチャなギターに、ボーカルの甲高い特徴的な声。同じ曲を何度も聞いていろんな楽しみを見つけられる。歌詞とメロディも耳に残りやすく、思わず歌いたくなるフレーズばかりで、やみつきになること間違いなし。リコーダーを使ったり遊び心満載で、音楽の考え方を良い意味で変えてくれる一枚。（長谷川）

ナードマグネット / 透明になったあなたへ



大阪の日本語パワー・ポップバンド。Bowling For Soup、Jimmy Eat World、Blink 182 等、00 年代初頭のエモやポップパンクへの大胆なオマージュを詰め込んだサウンドを、日本語詞とキャッチャーなメロディでコーティングした、ナード（=英語で「オタク」）もニッコリな1枚。パワー・ポップを軸にした表現の幅とクオリティは、間違いなく同ジャンルの金字塔だった前作以上。（中村）

THROW YOUR LIGHTS / Maze



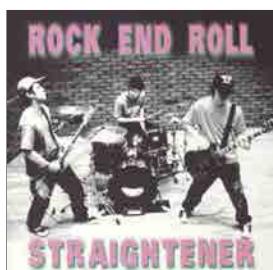
熊谷のメロディックハードコアバンド。Strike Anywhere に代表される 00 年代メロディックハードコアの爆発感と、The Story So Far などリズム感を重視した 10 年代ポップパンクを巧みにブレンドさせた、世界的にもいそうでないスタイルが最大の特徴。今作は異なるルーツを持つ 3 曲が収録されているが、それでも違和感を感じるのはバンドとしてのスタイルが明確であることの証明であろう。（中村）

GOING STEADY / BOYS & GIRLS



日本の代表的青春パンクバンド GOING STEADY。「THE 初期衝動」なアルバム。言葉一つ一つがどストレート。演奏も音質も荒々しいが、それこそがパンク。メロディセンスとフレーズセンスはピカイチ。「THE BRIDGE」で何度も泣いたことか。「YOU & I」で何度も力をもらったことか。歌詞カードなんていらないバンドこそ青春パンクバンドだ。人生で一度は通る道をいつでも思い出させてくれる一枚。（長谷川）

ストレイテナー / ROCK END ROLL



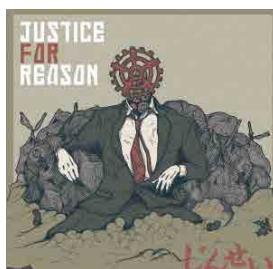
もともと 2 人組だったストレイテナーに、超攻撃的かつカリスマ性抜群のベーシスト日向秀和が加わって初めて作られたアルバム。音源とは思えないほどのライブ感。日本でこんなにベースが前に出てくるバンドはいるだろうか。世界にレッチリのフリーがいるなら、日本には日向秀和がいる。この出会いはベーシストとして何かが変わるはず。私自身のベースのフレーズ作りを劇的に楽しくさせてくれた一枚。（長谷川）

And Protector / Lime Green EP



静岡県三島市が誇るメロディックハードコアバンド。日々身の回りで起こる出来事をフィルターにして感情を吐き出すボーカルと、エモやハードコアから影響を強く受けた、情景を雄弁に語る轟音が絶妙に絡み合う名盤。bacho とのスプリットリリース等活動のスケールは全国区になつたが、今でもローカルを大切にした活動を続けており、同様のスタイルを重んじるハードコアシーンともつながりが深い。（中村）

Justice For Reason / じんせい



京都から社会の労働者へ発信を続ける、ハードコア × 社畜の「社畜コア」バンド。冗談みたいなコンセプトとは裏腹に、叙情 HC～激情 HC～メタルコアの美味しいところが総ざらいされており、この手のジャンルの入門編としてお勧めできる 1 枚。最近は残業（新曲制作）中のようだが、スーツで出社（ライブ）した際の同志（オーディエンス）を巻き込むパフォーマンスは圧巻。物販で名刺交換（名刺交換）も可能。（中村）

Pense / Realidade, Vida e Fé



ブラジル、ペロオリゾンテのハードコアバンド。ポルトガル語特有のリズム感と絶叫に近いメロディのボーカル、がっしりとしたリズムの上で縦横無尽に走り回るリフのクオリティはどちらも現行南米シーンの最高峰。前作はリフの力で一転突破するようなシーンも見受けられたが、今作にはリフがバンド全体のグループを加速させる役割を担うようになり、より完成度が高まつた。（中村）

俺のバンド論

筆者 川口淳太

こんにちは、Fallsheeps Gt/Vo、Made in Me. Gtのじゅんたです。今回上田さんにお願いされて、偉そうに俺のバンド論を書くことになりました。こいつ偉そうだな～って思って読んでください。「俺のバンド論」って時代によってどんどん自分の中でも変化してくる部分があるのだけれど、今一番大事にしている事を書かせてもらおうと思います。

バンド活動の心構え

バンドをやる上で一番大事な事ってなんだと思いますか?僕は1つ、根っこになっている部分があります。

それは「繋がりを1つ残らず取りこぼさない」です。これはバンド以外でもかなり重要なところなんですが、一見ただの対バンでも、「知り合うべくして知り合ってるんだ」という感覚を持つということ。学生の頃の友達って、正直卒業してしまえばあんまり会わなくなるし、疎遠になっていくんですね。でもバンドにはそれがない。続けていればあっという間に7年の仲とかになる。僕が上田さんに知り合ったのは2011年なのでもう8年くらいの関係です。そうやって繋がりを絶やさないで、着実に信頼・信用を紡いでいくことで、自分にとって・バンドにとって良いことが沢山起きます。

昔対バンしたつきり会ってなかっただけ、

3年ぶりに対バンしたらお互いめっちゃかっこよくなってて、企画に呼び合う仲になったりとか。そうやって色々な繋がりが増えていくのが、バンドの一番のいい所だと思います。バンドというキャラバンでどこまでも旅に出かけて、仲間を増やし続けていける感覺ですね。楽し過ぎだろおい。なので小さな繋がりでも一つ残らず大切にしていって欲しいです。

音楽との向き合い方

かっこいい曲を作るためには。出来るだけ多くの音楽を広く深く聴き、耳コピに励むことです。僕はギターの練習は人生でほとんどした事がなく、大体耳コピの最中に勝手に練習になってます。**10代のうちに500曲はコピーして欲しいですね。マジだよ。**バンドの音楽やってるからバンドだけ聴けばいいとか大間違い、アホです。エレクトロやピアノ、クラシックだって、バンドの音楽を作るのに役立ちます。ジャンルに偏見を持たずなんでも聴いてなんでもコピーしましょう。

あと、クラスの誰よりも、部活の誰よりも音楽の知識がある人間を目指そう!カッケ一やつは周りの人間と同じ音楽なんか聴いてないぜ。マイヘア以外にもかっこいい音楽あるぜ。でもそれで周りを見下しちゃダメだ

ぜ。優しく教えてあげるんだぜ。

かっこいいライブをするためにはどうしたらいいか。こればかりはかっこいい人間になるしかないです。心を動かされるライブを作る人って、話してるだけでなんか心が動かされるんですよね。多くの人生経験を積み、色々なことに向き合う努力をし、やりたい事に全力で走っていき、素直に生きる事です。多分、それが一番かっこいい。

あと、進路を音楽系にしようか悩んでる人。迷ってるなら行った方がいい。ぶっちゃけ安定もクソもない厳しい業界だけど、よく考えてみて。俺たち安定した生活をするために生まれたの?いや、違うね。やりたい事をやり続けて、死ぬまでにどこまで自分のことを知れるか、だと思う。

だから、本当に迷ったらDMでもLINEでもいいから相談してほしい。みんなで横須賀を最高の街に、盛り上げよう!!

川口淳太

Fallsheeps Vo / Gt、Made in Me. Gt

1994年生まれ、神奈川県横須賀市出身。

2017年 洗足学園音楽大学 ロック&ポップスコースを卒業後、フリーランスで音楽講師・アレンジャー・サポートギタリスト・デザイナー・ライター・プレイヤーとして積極的に活動中。

SELECTOR COMMENT

上田大輔 (inner space lab 代表)



今の10代の子たちが聴いてる音楽、そのバックボーンとなっているもの、新しい感性・教養を身につけるためのバランスを考え選びました。それぞれ10回ずつ聴いたら確実に世界は変わるよ。Twitter @innerspacelab

川口淳太 (Fallsheeps,Made in Me.)



オススメしたい名盤は死ぬほどあるんだけど、個人的に10代の頃出会えてよかった・出会いたかったアルバムをセレクトします。大人になりたいのが子ども、子どもになりたいのが大人。Twitter @junchai1994

長谷川巧 a.k.a 長谷部 (Gu-Gu-nicollection)



バンドを始めるきっかけをくれた。作曲や作詞やフレーズ作りの楽しさを教えてくれた。そんな大切なアルバム5枚。聴けば何かが変わるはず。Twitter @takumi_ggn

中村光太郎 (SxGxS,LLNPU Blog & Distro)



Spotifyやbandcampで試聴できる、一筋縄ではいかないルートを持つ国内バンドを中心に選びました。Twitter @gobogobogobo